

A C K



Left ; Richard Pettibone, Andy Warhol, 'Flowers', 1964, 2002-2010 ©Richard Pettibone, Courtesy of Castelli Gallery  
Right ; Teppei Kaneuji, POOOPOOOO(RP)#7, 2024 ©Teppei Kaneuji, Courtesy of Yumiko Chiba Associates

## Art Collaboration Kyoto

<https://a-c-k.jp>

2024年11月1日(金) - 11月3日(日)  
内覧会 : 10月31日(木) ※招待者と報道関係者のみ

11月1日(金) 12:00-19:00

11月2日(土) 12:00-19:00

11月3日(日) 11:00-17:00

※最終入場は閉場の1時間前まで

国立京都国際会館 ほか

606-0001 京都市左京区宝ヶ池 (京都市営地下鉄 烏丸線 国際会館駅から徒歩5分)



YUMIKO CHIBA ASSOCIATES

CASTELLI

Gallery Collaborations - Booth GC12  
Yumiko Chiba Associates/ Castelli Gallery

Teppei KANEUJI 金氏徹平 / Richard PETTIBONE リチャード・ペティボーン

金氏徹平は、多種多様なイメージやオブジェクトを複雑にコラージュし、多重レイヤー化した彫刻やインスタレーションなどをこれまで制作してきました。2023年からはじまった「POOOPOOOO」シリーズは、凹凸や厚みのある物質にプリントする印刷技術を使って制作さ

れ、複雑な層構造からなる作品です。引用したイメージは、金氏が影響を受けたロイ・リキテンスタイン、フランク・ステラ、サイ・トゥオンブリーなど。その空間には、絵具や写真といった素材、雑多なイメージ、異物やフィクションまでもが流れ込み、交錯しています。

リチャード・ペティボーンは他の作家による作品のイメージを小さいスケールで忠実に再現した絵画によって 60 年代に広く知られるようになりました。ペティボーンは美術雑誌に掲載されていた作品から特にアンディ・ウォーホル、ロイ・リキテンスタインのような新しいポップアートの動向の作家を選んで作品を制作しました。小さいサイズの絵画は彼が美術雑誌で見た作品イメージのサイズに実に忠実になっています。ペティボーン作品は 1980 年代に広がっていったアプロプリエーションアートの基盤となりました。

こうした代表的なペティボーンの 60 年代の作品に、金氏がオマージュをもって応答します。これらの作品のコラボレーションによって美術史の中で新たな文脈を作ることを試みたいと思います。

## ペティボーンとのコラボレーションブースについて

2023 年から新しく取り組んでいる「POOOPOPOO」シリーズと、Richard Pettibone の一連の、ポップアートやコンセプチュアルアートなどのマスターピースをミニチュア化したシリーズに強い繋がりを感じています。

「POOOPOPOO」というタイトルの p と o の羅列は途中までは正確に作品の制作プロセスの順番を追っていますが、途中からは無意味なフィクションです。photo, on, phenomenon, oil, paint, of, picture, object, panel, over, pour, or, print, opposite, planet, optimize, paper, . . . 液体としての写真、絵。"oil on photo"、"写真の写真"から"photo on oil"、"絵の写真的絵の写真"。

これらの作品は、既存の絵画の写真やイメージ、壁のシミや汚れ、落ちている髪の毛、子供の落書き、チラシなどの印刷物、絵の具のマチエール、などを素材としてコラージュしています。

絵画というよりは、コラージュによって新しい空間を作り出す彫刻に近いと考えています。

一時的な単位、空間、歴史、集団、価値、を作り、それがまたバラバラになったり、別の何かに変化していく。閉じた一つとして見えていたものを、解体し、それ自体をマテリアルとして見て、それらの層の中に空間を作ることで異物やフィクションが紛れ込む余地を作っています。

Pettibone の作品もまた、完成され、歴史化され、価値や意味が固定化されたようにも見えてしまう過去の作品をそれぞれを個別の現象と捉えて、ミニチュア化することで個人的な経験や感覚に引き寄せ、再解釈し、また新たな生態系や動きを生み出すようなものだと感じています。

今回の新作やインスタレーションには Pettibone へのオマージュの意味も込めて、「POOOPOPOO (RP)」というタイトルをつけました。

(金氏徹平 2024 年 10 月)

## ■ リチャード・ペティボーン (アメリカ、1938 - 2024)

アプロプリエーション手法を使う先駆者のアーティストの一人である。ロスアンゼルスで生まれ、始めはシャドーボックスやアッセンブラージュに取り組み、工芸、建設に興味を示し、ミニチュア・スケールで作品を制作した。1964 年には初めてのアプロプリエーション作品、アンディ・ウォーホルの代表的なキャンベルのスूप缶を描いた二つの小さなレプリカ作品を作った。1965 年までに、ウォーホル、ロイ・リキテンスタイン、エド・ルシェ、他にも、ポップアート界の大物を含む、アメリカ人アーティスト達の絵画の「レプリカ」をいくつも制作した。ペティボーンは、複製のテーマが多い一流の前衛アーティスト達の作品を再現したが、それは彼の作品により皮肉さを加えた。また、マルセル・デュシャンの「自転車の車輪」の完全コピーを含む、ミニチュアや実物大の彫刻作品の両方を作り、1980 年代には、コンスタンティン・ブランクーシの、最も有名な作品の再現からなる様々なサイズの彫刻の全シリーズを完成した。近年ではエズラ・パウンドの詩集の表紙をモチーフにした絵画や、ピート・モンドリアンのグリッド・コンポジションをベースに彫刻を制作した。ペティボーンはアプロプリエーション、ポップアート、コンセプチュアルアートの境界をまたいでいる。彼の作品が、作者性、職人の技、アートにおけるオリジナルについて、重要な問いを提起していることから、何十年ものあいだ批評家達の注目を集めている。リチャード・ペティボーン作品は Institute for Contemporary Art (フィラデルフィア)、Museum of Modern Art (ニューヨーク)、Museum of Contemporary Art (マイアミ)、Laguna Art Museum、(ラグーナビーチ、カリフォルニア)で展示されて来ている。2024 年 8 月死去。

**■ 金氏徹平 (日本、1978 -)**

1978年京都府生まれ、京都市在住。2001年京都市立芸術大学在籍中、ロイヤル・カレッジ・オブ・アート（ロンドン）に交換留学。2003年京都市立芸術大学大学院彫刻専攻修了。現在、同大学彫刻専攻准教授。

日常の事物を収集し、コラージュ的手法を用いて作品を制作。彫刻、絵画、映像、写真など表現形態は多岐にわたり、一貫して物質とイメージの関係を顕在化する造形システムの考案を探索。個展「消しゴム森」（金沢21世紀美術館、2020）、「金氏徹平のメルカトル・メンブレ」（丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、2016）、「四角い液体、メタリックなメモリー」（京都芸術センター、2014）、「Towering Something」（ユーレンス現代美術センター、2013）、「溶け出す都市、空白の森」（横浜美術、2009）など国内外での展覧会のほか、舞台美術や装丁も多数。あうるスポットプロデュース「家電のように解り合えない」（2011）、KAATキッズ・プログラム2015 おいしいおかしいおしばい「わかったさんのクッキー」（2015-2016）、KYOTO EXPERIMENT 2019 チェルフィッチュ x 金氏徹平、「消しゴム山」（2019）、チェルフィッチュ x 金氏徹平「消しゴム森」（金沢21世紀美術館、2020）での舞台美術をはじめ、自身の映像作品を舞台化した「tower (THEATER)」（ロームシアター京都サウスホール、Kyoto Experiment 2017）では演出を手掛ける。

現在、神戸六甲ミーツ・アート（兵庫）、「日本現代美術私観：高橋龍太郎コレクション」東京都現代美術館（東京）、「タグチアートコレクションx弘前れんが倉庫美術館 どうやってこの世界に生まれてきたの？」弘前れんが倉庫美術館（青森）、「T2 Collection「Collecting? Connecting?」展」WHAT MUSEUM（東京）、「コレクション展2 都市漂流」金沢21世紀美術館（石川）、「Mindscapes」Gana Art Center（ソウル/韓国）にて作品が展示中。またThe Hermès Maison in Shanghai（上海/中国）のウィンドウにて「Faubourg as Infinity Tower」を展開中。

作品は横浜美術館、森美術館、東京都現代美術館、国立国際美術館、金沢21世紀美術館、Queensland Art Gallery & Gallery of Modern Art (オーストラリア)など国内外の主要な美術館にコレクションされている。